

# 小施策評価シート (平成 27 年度実績評価)

施策コード	13	施策名	スポーツの推進	
小施策コード	13-4	小施策名	プロスポーツ等との連携	
小施策 主管課等コード	049000	小施策 主管課等名	スポーツ推進課	
評価責任者名	山本 英朝		内線番号	8430
評価シート作成者名	曾根田 雅彦		内線番号	8431

## Step 1 小施策の全体像

### 小施策の概要等（構成事業は別紙ロジックモデルシートのとおり）

現状と課題	本市をホームタウンとするプロスポーツのチームの活躍は、まちの活性化、スポーツ人口の拡大など、さまざまな効果が期待できるため、市民の関心を高めるさまざまな施策を講じる必要がある。
取組の方向性	市民のスポーツへの関心を高めるとともに、スポーツを通じた地域活性化を目指して、プロやプロを目指すチームとの連携を図る。
対象 <small>(誰(何)を対象として行うのか)</small>	市民、プロスポーツ団体等
意図 <small>(対象をどのようにしたいのか)</small>	市民のスポーツへの関心を高める

## Step 2 成果指標の推移

（↑：数値を上げていくことを目標とする指標， ↓：数値を下げていくことを目標とする指標， →：数値を維持することを目標とする指標）

指標項目	単位	25年度 実績 (現状値)	27年度 実績	31年度 目標値	36年度 目標値
A プロチーム等のチーム会員 数 (↑)	人	2,177	13,799	14,000	24,000
B ( )					
C ( )					

## Step 3 市民ニーズの把握

プロバスケットボールリーグ（Bリーグ）の1部昇格を目指す岩手ビッグブルズやサッカーJ2昇格を目指すグルージャ盛岡への支援など、プロスポーツに関する施策については、新たな対応が求められている。また、岩手ビッグブルズが実施した会員1万人プロジェクトでは、短期間で1万人突破の目標を達成したことから市民の関心は高いと考えられる。

## Step 4 役割分担分析

### 1 各主体の役割の状況

		役割の内容	役割分担 比率 (%)
各主体の 役割の状況	市	チーム力強化や市民に愛されるチームづくりへの支援を行う。	40
	国・県・ 他自治体	岩手県の財産としてプロスポーツチーム支援の具体策を講じる必要がある。	10
	市民・ NPO	プロスポーツチームの会員となりチームを応援する。	25
	企業・ その他	プロスポーツチームを支援するスポンサーになる。	25

### 2 今後の市の役割の比重の方向性とその理由

- 市の役割の比重を拡大していくことを検討する
- 現状維持（現在の市の役割の比重を維持する）
- 市の役割の比重を縮小していくことを検討する

（理由）

市は、これまでプロスポーツチームの活動拠点となる施設の整備やホームスタジアム・ホームアリーナとして優先的な利用が可能となるよう努めてきたものであるが、今後は、岩手県を中心にプロスポーツ支援策を展開するほか、球団運営会社が安定的に自立した経営が可能となるよう更なる市民等のファンクラブへの入会や企業の支援を受けられるよう自助努力が必要と考えられるため。

## Step 5 成果・問題点の把握と改革改善案

### 1 成果の把握と要因分析及び課題の設定

#### (1) 小施策の中で成果をあげた点

強化合宿の実施により希望郷いわて国体での活躍が期待できること。

#### (2) 成果をあげた要因

グルージャ盛岡が J 3 シーズン開幕前に温暖な地域での強化合宿が実施できたこと。

#### (3) さらなる成果向上に向けて取り組むべき課題（課題がある場合に記載）

プロスポーツ球団が市の実施する財政的な支援がなくても自立した運営が可能となるよう市民や企業が応援したくなる機運醸成方策を検討する必要がある。

### 2 問題点の把握と原因分析及び課題の設定

#### (1) 小施策における現状の問題点

J 3 リーグ戦等におけるチームの成績が低迷している。

#### (2) 現状の問題点が生じている原因

「J 3 リーグ戦等の成績の低迷→観客の減少→更なる成績の低迷」という負のスパイラルが形成されている可能性がある。

#### (3) 分析した原因を踏まえて取り組むべき課題

市民が試合会場に足を運ぶことがチーム成績の向上に繋がると考えられることから、応援機運の醸成や試合情報の周知に努める必要がある。

### 3 改革改善案（上記 1 (3) 及び 2 (3) で設定した課題に対する具体の取組）

サッカー J 3 のグルージャ盛岡のみではなく、J P B L 2 部の岩手ビッグブルズとの連携により、相互の試合観戦割引の創設や試合以外でも楽しめるイベントの実施など、球団運営会社と連携した応援機運の醸成や試合情報の周知に関する施策を検討する。

加えて、市の補助金の有無がチームの J 3 リーグ戦等での活躍に直接つながるものではなく、「応援機運の醸成による観客の増加→J 3 リーグ戦等の成績の向上→更なる観客の増加→更なる成績の向上」といった正のスパイラルを形成していく中で、チームの経営状況が改善し、市の補助金等による財政的な支援が無くとも自立した運営が可能となると考えている。

## Step 6 小施策と構成事業の関係性

### 1 小施策との結び付きが弱い、もしくは他の事業と重複していると考えられる事業

「プロスポーツ支援事業補助金」

### 2 1 で記載した事業についてその理由

「プロスポーツ支援事業補助金」の目指す成果は、ファンクラブ会員の増加により市民のスポーツに対する関心を高めることにあるが、チームへの補助金支出が成果の向上に直接つながるものではないと考えられるため。

### **3 1で記載した事業の今後の方向性（案）（縮小・廃止・統廃合等）**

「プロスポーツ支援事業補助金」については、必要に応じ実施する場合が想定されるが、当面は廃止を検討する（H28は予算無し）。

ただし、今後においてもプロスポーツ等との連携は必要であると考えことから、市民や企業の応援機運醸成に繋がるような新たな支援策を検討していく。